

北光

第 141 号

平成20年8月7日

特集：北光会設立80周年記念
学部創立100周年記念寄附者御芳名
(中間報告：平成18年7月～平成20年6月)



北光会 (<http://www.hokkokai.com>)

秋田鉦山専門学校
秋田大学鉦山学部 同窓会
秋田大学工学資源学部

秋田大学工学資源学部は、明治44年(1911年)に秋田鉱山専門学校として新入生を迎えて以来、平成23年(2011年)に創立100周年を迎えることになります。
また、北光会は昭和3年(1928年)に設立され、平成20年(2008年)に80周年となります。

目 次

巻頭言	菊 地 芳 朗	1
北光会館の思い出、そして新同窓会館の夢	西 田 真	4
北光会設立80周年・生命化学科新設記念講演会報告	石 山 大 三	5
全寮合同寮祭を開催	菅 井 幹 夫	7
北光会年表		9
北光会設立80周年に寄せて		10
狩野豊太郎・工藤 敏夫・千葉 到・小松 博		
研究最前線	吉 村 哲	14
韓国・忠南国立大学との合同セミナー報告	齊 藤 準	16
Joint Symposium 2008開催報告	水戸部 一 孝	17
先輩から後輩へ	村 田 健 司	19
工学資源学部の英語教育の新展開 - TOEICの全員受験	菊 地 賢 一	20
工学資源学部技術部改革と教育研究技術支援の状況	伊 藤 芳 昭	21
平成20年度 理事会・通常総会報告	中 田 真 一	22
学部創立100周年記念事業報告		34
寄 稿...77歳で修士(学術)の学位を取得して.....	外 崎 厚	36
北から南から - 支部・クラス会だより -		37
母校だより・会員だより・会員消息		44
事務局から		47
計 報		47
編 集 後 記		48
学部創立100周年記念寄附者御芳名		49

会費納入のご協力をお願いします：このところ北光会会費の納入率の低下が目立っております。特に、若い会員のご協力をお願いします。

表紙写真：全国花火競技大会「大曲の花火」(8月第4土曜日開催)

全国的に有名な、歴史ある花火競技大会。

夜空を彩る数々の花火は“素晴らしい”の一言に尽きますが、会場やその周辺の混雑にも凄いものがあります。

撮影：杉山 渉 (MH2)

「北光会」設立80周年に思う

北光会会長 菊 地 芳 朗 (GS34)



今年は、昭和3年に北光会が設立されてから80周年を迎えることになりました。大変おめでたいことで、皆さんと共に祝いしたいと思います。

まず、創立100周年記念募金の現状についてご

報告致します。6月30日現在、総額1億1,529万円のご芳志を賜り感謝申し上げます。その内、北光会は2,279人、6,060万円であります。北光会の目標金額は1億円であります。なお一層のご支援をお願い致します。

さて、北光会設立当時を振り返り、その後の経緯について現存する資料から述べてみたいと思います。

大正15年2月、北光会創立の気運が高まり会則草案の起草が行われ、それを基に昭和2年11月21日午前10時より秋田市内で、市内及び付近在住の16名が集まり同窓の会合が開かれました。ここで会則や趣意書が作られ、「時計の針は段々正午を廻って居る食事こそつちのけにして會則第七條による會長理事、評議員の選定を了へた」とあります。

明けて昭和3年6月2日、秋田市内及び付近在住の会員10名が集まり、本年度役員、会誌編集委員の選出が行われ、名誉会長に平岡通也校長を、会長に柏木巳間之助氏（冶金T3）、その他理事等を選定し、北光会が設立されました。（会員数：約630名）

さて、私は北光会長を拝命してから二つのことに疑問を感じておりました。一つは、北光会の名前の由来であります。このことについては先号の「北光」で申し上げてあります。

二つ目は、「どうして同窓会を作ったのか」であります。

それは大変立派な校友会があるのに何故同窓会が必要であったのか、と云うことです。

校友会は初代校長 小花冬吉先生が精魂を傾けて、秋田鉱山専門学校が創立された翌明治44年に設立したものであります。教員、学生、卒業生が会員で、それに産業界の蒼々たる方々が名誉会員となっております。

校友会誌や北光会誌をみても、「何故設立したか」については書かれておりません。だが推測させるような資料はあります。

それは「北光」の第1号と第2号に大橋良一先生が「回想録」と題して載せている文章にみられます。「大正5-10年頃になり、会員の大多数を占める卒業生が、會の中心から殆ど何らの考慮も払われず、他人扱いを受け不満々の有様」とあるのです。このように、校友会との関係が原因であったのでしょうか。

推測は別として、北光会を創るのには大変な努力があったものと思われます。当時の卒業生にとって、初代校長の小花冬吉先生は神様の様な先生であったと思われます。

このように思われている小花先生が精魂を傾けて創られました校友会とは別に同窓会を創るのですから、大変であったと思います。しかし、結果的には円満に出来たものと思われます。それは、北光会は出来たばかりでお金がなく、校友会から基金を頂いております。そして北光会員には以後校友会誌を送らないことまで取り決めております。

このように多大な努力の下に北光会が創られたものと思います。

その後の主な活動を「北光」からみますと、

1. 昭和3年8月：「北光」第1号を発行する。初代校長小花冬吉先生を始め歴代校長の胸像油絵肖像又はブロンズ浮彫掛額作製の募金が提案され、昭和5年5月小花先生の胸像除幕式が行われる（胸像は戦時中に供出され、基石のみが残された。戦後、会員に醸金を呼びかけ再建され、昭和25年10月に再建除幕式が行われた）。

2. 昭和6年9月：満州事変が勃発し、会員の多くが満州に渡り、昭和7年12月北光会満州支部が設立される。

3. 昭和12年12月：佐藤謙三氏（選科T6）の寄付により学生集会所が建設される。

4. 「北光」第20号（S13.1.1発行）から「戦地便り」が掲載され、所在地は〇〇と記入されておらず、戦時色を感じるようになる。

5. 昭和15年7月：加賀谷文治郎先生引率のもと20名の学生が満州勤労奉仕隊として渡満し、当時の満州各地を廻る。

6. 同年10月：母校創立30周年の式典が行われる。（会員数：1,700名を超える）

こうして漸次戦時色が強くなり、昭和15年発行の第24号から紙質が極端に悪くなり、昭和17年12月5日発行の第26号を以て「北光」は休刊となる。

戦後、東京支部を中心に北光会再興の気運が高まり（昭和25年：東京北光会大会）、戦時中、休刊のやむなきに到った会誌「北光」が東京北光会の尽力により復刊される。

（この間、昭和21年から秋田県をも取り込んだ単科大学（鉾山大学）昇格運動が行われたが実らず、昭和24年5月、秋田師範学校、秋田青年師範学校と併合し秋田大学鉾山学部となったが、会誌が発行されていないため、会員の活動状況についての記録は残っていない）

7. 昭和28年4月：「北光」復刊第1号が東京北光会より発行される。2代会長 大河原三郎氏（冶金T4）は「北光会報再刊の歓び」

と題し、「国内・海外で活躍され、我が国産業界に期与せられつつあることは、私共の誇りとする所であり、各支部に於いて大会を催され、旧情を暖めらるる快報に接し、北光会の前途に大いなる希望を持つに到りました」と力強く述べている。（会員数：約6,000名）

8. 昭和28年4月：戦後初の総会が日本鉱業会講堂（東京）で開かれる。出席した会員は約100名、これに多数の委任状を加えて、新役員を選出した。

9. 昭和31年9月：第1回支部長会議（全国に9支部が置かれた）が開催され、創立50周年記念事業として鉱業博物館建設が討議された。更に単科大学（秋田鉾山大学）についても討議された。

10. 昭和32年3月：北光会単独で「鉾山学部を分離し単科大学として独立する」旨の記者会見を行う。その後開催された第2回支部長会議で討論審議された。

11. 昭和32年4月：通常総会で「創立50周年記念事業」が可決された。

12. 同年11月：教授会で創立50周年記念事業を行うことを決定し、「秋田大学鉾山学部創立50周年記念会」が組織され「鉱業博物館」の建設が決定した。

13. 昭和36年3月：寺井和志蔵氏（採鉱T15）の寄付を基金に北光会奨学部が設立される。

14. 同年10月：天皇、皇后両陛下鉱業博物館に行幸啓される。

15. 同年10月：鉱業博物館が一般に公開される。

16. 同年10月：鉾山学部創立50周年記念式典が挙行され、「秋田鉾山専門学校・秋田大学鉾山学部50年史」が刊行される。

17. 同年10月：臨時総会で、鉾山大学昇格促進決議を行う。

18. 昭和38年8月：戦没北光会員追悼式をご遺族、学長、学部長、北光会員出席のもとに鉱業博物館講堂で行う。

19. 昭和41年4月：昭和40年に文部省に移管された鉱業博物館の運営・発展を図る目的で

「財団法人鉱業博物館後援会」の設立が文部省より認可される。

20. 昭和46年10月：創立60周年記念式典を行い、60年史が刊行される。
21. 昭和50年12月：鉱業博物館創立10周年記念事業として文献資料庫が建設される。
22. 昭和56年：創立70周年記念として鉱山学部前庭の環境整備を行い、台湾北光会より記念の蛇紋岩が寄贈される。
23. 昭和61年10月：創立75周年記念式典を行う。記念事業として、国際交流基金を創設する。
24. 平成6年10月：鉱業博物館創立30周年記念事業としてリフレッシュ事業を行う。
25. 平成12年6月：創立90周年記念式典を行う。
26. 平成16年10月：支部長会を再開する。
27. 平成17年2月：産学官連携を目的に東京・関西でセミナーを開催する。現在まで東京セミナー14回、関西セミナー3回を数える。
28. 平成18年6月：工学資源学部創立100周年記念会が発足し、記念事業として学術支援基金の創設、鉱業博物館の拡充・整備等を行うことになり、募金活動を開始する。
29. 平成19年5月：通常総会を海外で初めて台湾で行う。
30. 平成20年6月：北光会設立80周年記念講演会（学部との共催）と全寮合同寮祭を行う。

このように私達の活動の殆どは学部への協力・応援であります。会誌の発行などを除いた北光会独自の活動は、昭和3年の小花校長の胸像の作製、昭和12年の学生会館の建設、昭和31年の単科大学運動、昭和36年の奨学部の設立、昭和38年の戦没北光会員追悼式、平成20年の全寮合同寮祭位でしょうか。

今回、「北光」に眼を通して感じたことは、同窓会とは「何なのか」と云うことでした。

定款よる会の目的は「会員相互の親睦をはかり、併せて学部の発展並びに鉱工業を中心とする産業の発展に寄与する」とあります。昭和3

年の設立当時や戦後再開された時の定款も若干の文字の違いがあっても目的は同じであります。これからしても母校の発展に協力することは当然のこと、と云わなければなりません。しかし、その前提には会員相互の親睦が必要です。会員相互の信頼があつてこそ母校に協力出来るのではないのでしょうか。

戦前の「北光」にも「支部便り」や「会員の消息」などがあります。最近、現在の「北から南から－支部・クラス会だより－」は「酒を飲んでの会合だけだ」との批判を耳にしたことがあります。しかし、これも親睦のためには必要なことではないのでしょうか。

親睦とは何かを、今一度考えてみる必要があると思います。そして、現在問題になっている北光会の活性化や会費納入率向上のために、会員相互の親睦を密にする必要があります。そのためには支部の地区単位や職場単位の活動を盛んにすることも必要と思います。

本年5月に開催の東海北陸支部総会に平成年度卒の会員が15名出席されました。職場単位の活動を活発にした結果と聞きました。また、本年の設立80周年記念枠で感謝状を受けられました秋田市役所北光会、秋田工業高等学校北光会、(株)ペンは毎年職場単位で会費を一括納入されております。このようなことを参考に会の活性化に努めて行きたいと思います。

設立80周年に当たり、北光会を設立し、今日までご尽力頂きました諸先輩に感謝申し上げ、更に成長・発展するために皆様と共に努力していくことを誓いまして、一言ご挨拶と致します。皆様のご意見をお待ちしております。

北光会は皆様のお力で維持されております。会費納入率の向上にご協力下さい。

北光会設立80周年に寄せて

－北光会館の思い出、そして新同窓会館の夢－

工学資源学部長 西 田 眞 (ES49)

本年度、秋田鉾山専門学校、秋田大学鉾山学部、工学資源学部の同窓会である北光会の設立80周年を迎えることになります。歴史ある北光会のメンバーの一人として、まずもってお祝い申し上げます。

さて、私が同窓会としての北光会を意識したのは卒業式の後に開催された入会式でした。当時、入会式の会場は今の工学資源学部1号館の共126(当時は127です)講義室でした。在学中、北光会が同窓会であるとの認識は乏しかったのですが、北光と言う名前は、「北光寮」の名前以外でも良く知り、使っていました。当時、手形キャンパス北側、野球場の側に、木造の古い建物があり、昼食で頻繁に、また、コンパなどで偶に利用し、この建物が北光会館と呼ばれていましたので、「北光」は当然のごとく知っていました。つまり、食堂として利用した北光会館を通じて、「北光」を毎日意識していたことになります。この北光会館が、同窓の北光会と関係していたことは、卒業後大学に戻ってから知りました。学生時代は、同窓会である北光会を意識せず、同窓会館たる「北光会館」を通じて「北光」になじんでいたことになります。何ともお粗末な話ですが、これが現実です。

現在の学生が北光会を意識するのはいつ頃のことでしょうか?学科を通じて配付される会誌を通じて「北光」の名前と、同窓会であることは知っているようです(北光会誌を読んでいるかは疑わしい)。しかし、名前を知っていることと自分が学生会員であるとの認識が有るかは違うようです。卒業式の間近に、入会式の案内を受け取っても、「何をするのか」と質問する学生も偶におります。これは、日常、北光会を意識する身近な事象が少ないことや、日項目に付く建物(同窓会館のような)等が存在しないことも一因でしょう。昔、学生時代に「北光会

館」で昼食を採った、コンパをした、友達と話した、卒業した先輩と話した等々、思い出となる場所が存在しないことも一因でしょう。在校生が同窓会の存在をより身近に思い、卒業生を繋ぐためには、昔の北光会館に変わる何かが必要です。

さて、秋田大学では、本年度メディア学生センター(仮称)を建築するべく概算要求を行っています。メディア学生センターは、図書館と総合情報処理センター、学生支援関連事務が一体となる、大規模な建築物となります。正門から入ると全面ガラス張りの近代的な建物があり、大学のシンボルとして、多くの学生が集うメインの施設となる計画です。メディア学生センターの建設にあわせて、周辺環境の整備(車庫の移動、庭の整備)も実施されますので、正門からの鳥瞰は一変することになります。メディア学生センターの完成は平成22年中が予想されますが、これは学部創立100周年事業と重なります。

この、大学全体の環境変化を好機と捉え、メディア学生センターの一角に、同窓会館(北光会館)としてのスペースを確保できれば、在校生と卒業生(同窓生)とが集う空間が生まれることになり、両者の絆も強固なものになるでしょう。また、そこに北光会の歴史的遺産を展示するコーナーでも設備できればなお結構です。昔、木造の北光会館で集ったように、新時代のメディア学生センターで学生が集い同窓会(北光会)を意識し、卒業生が集い秋田大学を意識する、世代間交流が生まれることは間違いありません。100周年事業の一つである、モニュメントに代わり、新同窓会館(北光会館)を確保する、これは世代を繋ぐ貴重な遺産となること必定です。真夏の夢として終わらせたくないものです。

HS24 杉 山 貞 蔵 群馬県 H20年 4月18日
FS29 須 藤 英 一 北海道 H20年 1月 5日
FS31 冷 水 健 悦 青森県 H20年 3月21日
ES33 高 橋 静 穂 北海道 H20年 2月26日

MS42 寺 岡 紘 治 宮城県 H19年11月 5日
HS47 高 橋 栄 二 愛知県 H20年 4月25日
BS49 菊 地 敏 夫 北海道 H20年 4月12日

一 編 集 後 記

先日、家族とともに秋田市大森山動物園（ミルヴェ）に出かけました。久しぶりの動物と動物園の変わり様、そして幼稚園に通う息子の“どうして？”という質問を堪能できた一日でした。

“人は4回（時期）動物園に行く機会がある”，と聞いたことがあります。①子どものときは、家族や幼稚園・小学校の行事で、②高校生・大学生のときは、彼氏や彼女とのデート先として、③親となり、子どもとともに、④孫が生まれ、家族に囲まれて、とのこと。実際に行った時には、予想以上にケース④の場合が多く、“動物園は世代を超えて楽しめる場所なんだな”と嬉しく思った次第です。

私の大森山動物園に関する一番古い記憶は、チンパンジーに唾をかけられるというものです。子どもの頃は、動物そのものにしか関心がありませんでしたし、園内も“(当然ですが)動物がいます”といった雰囲気だったような気がするのですが、今回は動物の見せ方など動物園の工夫に感心させられました。“動物たちのまんまタイム”では、動物たちがまんま（ごはん）を食べるときの、生き生きとした様子を見ることができましたし、飼育係の方が丁寧に解説してくれました。また、ワンコインで羊やラクダに餌をやることができ、初めはおっかなびっくりだった息子が誇らしげに餌をやり終えたときには、思わず笑みがこぼれました。他にも、身近で動物を見るための工夫が各所に施されており、リピーターにも楽しめる場所だなと思った次第です。また、同じ動物園であっても、年齢とともに見方や感じ方が変わるのだなとも思いました。

さて、今回で第141号となる「北光」も工学資源学部在校生から鉱山専門学校卒業生の大先輩に至るまで、幅広い世代の方々にお届けしております。“北光会・工学資源学部の旬の情報”を皆様にお伝えするこの冊子が世代を超えて楽しんでいただけたら幸いです。

景山陽一（IH7）

発行所 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
秋田大学工学資源学部 北 光 会
URL: <http://www.hokkokai.com>
E-mail: info@hokkokai.com
電 話 018 (835) 9822
018 (889) 2317
F A X 018 (835) 9822
振 替 02510-5-1231

発行人 及 川 洋（CS47）

編集委員

石山 大三（GS56）、今井 忠男（BS63）
杉山 涉（MH2）、近藤 良彦（FH5）
景山 陽一（IH7）、福本 倫久（AH10）
萱野 良樹（EH13）、齋藤 憲寿（CH18）

北光会事務局

事務局長 及 川 洋（CS47）
庶務担当理事 中 田 真 一（FS53）
会計担当理事 鈴 木 雅 史（ES60）
ホームページ担当理事
横 山 洋 之（DH1）
コンピュータ担当理事
玉 本 英 夫

事務室 遠 藤 福 子、佐々木 静 子
印刷所 秋田活版印刷株式会社

工学資源学部創立100周年記念事業 達成へのご協力依頼

創立100周年記念会会長 徳 田 弘
秋田大学工学資源学部長 西 田 眞
北 光 会 会 長 菊 地 芳 朗

平成18年6月に工学資源学部創立100周年記念会が発足し、7月に募金活動を開始してから、早くも2年が経過しました。この間、北光会正会員・特別会員および旧教職員、企業関係の皆様から多大なるご寄附を賜りました。同時に多くの方々から、叱咤激励のお言葉を頂戴して参りました。厚く御礼を申し上げます。

ご承知のように100周年記念事業達成のための募金目標額は3億円です。本年6月末現在の寄附金総額は115,287,891円です。昨年度から学部の教員が中心となって企業に募金協力を行っておりますが、石油を含む地下資源の高騰や公共事業の大幅減などの要因が重なって、募金委員会が作成した企業目標額を満額寄附して頂く企業数はかなり低い状況にあります。

ところで、これまでにご芳志を頂いた方々のご芳名は、「北光」136号（平成18年11月発行）から141号（平成20年8月発行）にわたって、印刷費の都合上、寄附受付期間を区切って掲載して参りました。この掲載方法に対して、これまでにご寄附された方々のご芳名はこれらを全て見ないと解らないので、同窓生に寄附の呼びかけをしにくいのご意見が多数寄せられております。そこで、本号の51ページ以降に、平成18年7月から本年6月末までの寄附者御芳名を、企業、クラス会・団体、篤志家、旧教職員、現教職員、学科等の卒業

年次毎などで示しております。

一方、北光会の正会員の皆様には、ご承知のように総額1億円を目標に募金活動を行っております。本年6月末現在、2,279名の方々から、総額60,596,391円（目標額の60.6%）のご芳志を賜っております。目標の1億円は、北光会にとっては高額であることから、卒業年次別募金額を次のように設定しております（北光138号から引用）：昭和44年以前の卒業生は出来れば15,000円以上、昭和45年～昭和57年の卒業生は30,000円以上、昭和58年～平成7年の卒業生は25,000円以上、平成8年以降卒業生は20,000円以上。

北光会の目標額を達成するためには、15,000人以上おられる正会員一人一人のご協力が不可欠です。既にご寄附して頂いた方々は、次ページ以降の御芳名リストを参考に、同窓生の方々への呼びかけを御願ひする次第です。

なお、最新版の「募金趣意書」（払込・振替用紙入り）を北光141号と共に送付させて頂きました。この「募金趣意書」は、主として副会長、常任理事、理事などの役員名簿を修正したもので、事業内容・募金目標額・募金要項などは従来と同様です。最新の趣意書を全員に送付した関係で、払込・振込用紙も同封されております。既に募金されている方には、ご迷惑をおかけしますが、ご容赦下さいますよう御願ひします。

学部創立100周年記念 寄附者御芳名

次ページ以降に収めました企業を含む寄附者の御芳名は、平成18年7月1日から平成20年6月末日までに受け付けた分です。

ご寄附を頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

寄附金

累計件数	2,613件
------	--------

累計金額	115,287,891円
	(平成20年6月30日現在)

寄附者御芳名 (敬称略)

(平成18年7月1日～平成20年6月30日受付分)

企 業

ADK富士システム㈱
株式会社ウインタック
JFEホールディングス㈱
NECソフトウェア東北㈱
NTTアドバンステクノロジ㈱
アイ・エム・サービス㈱
㈱アイシーエス
アカオアルミ㈱
㈱秋田銀行
㈱秋田魁新報社
秋田指月㈱
アドソル日進㈱
㈱アルファシステムズ中原テクノセンター1号館
㈱五十鈴製作所秋田工場
乾正貴金属化工㈱
イシノコ東京ニツケル㈱
上田石灰製造㈱
㈱F1杵鋼板工業所
エービーアイ㈱
㈱エスエフティー
㈱エンプラス
オイレス工業㈱
㈱オーム社
鹿島建設秋田営業所
檜山工業㈱
㈱カナエ
河合石灰工業㈱
関東天然瓦斯開発㈱
キョウエーソリューションズ㈱
基礎エンジニアリング㈱
協栄産業㈱
㈱クリステンセン・マイカイ
コア・テクノ㈱
㈱興和工業所
㈱コスモアライアンス
コスモ工機㈱
小林工業㈱
㈱コベルコ科研

株式会社五洋電子
 サクサシステムエンジニアリング株式会社
 三和テック株式会社
 株式会社シー・アンド・アールコンサルタント
 株式会社ジェムコ
 株式会社島津製作所
 清水建設株式会社東北支店
 株式会社シメックス
 信成シンショウ
 新日鉱ホールディングス株式会社
 住友ベークライト株式会社
 石油資源開発株式会社
 綜警情報システム株式会社
 総合警備保障株式会社
 ソレキア株式会社
 大成ロテック株式会社東北支社
 大平洋金属株式会社
 株式会社ダイエーコンサルタント東北支社
 タドコロインターナショナル株式会社
 株式会社タンガロイ
 千葉エンジニアリング株式会社
 中央発條株式会社
 中部鋼飯株式会社
 ティーディーシーソフトウェアエンジニアリング株式会社
 株式会社テルナイト
 東雄興業株式会社
 東京コンサルタンツ株式会社東北支店
 東京鋼鐵株式会社
 東芝エレベーター株式会社
 東北ソリューションサービス株式会社
 東洋精箔株式会社
 トキコテックノ株式会社
 株式会社ナカヨ通信機
 並木精密宝石株式会社秋田湯沢工場
 成美興業株式会社
 ニチハ株式会社
 日鉄鉱業株式会社
 日鐵住金溶接工業株式会社
 社団法人日本海事検定協会

日本クラウンコルク(株)
日本ケミコン(株)
日本新金属(株)
日本精機(株)
日本天然ガス(株)
日本発条(株)
(株)パース情報科学研究所
ハットリ(株)
(株)ピーシーコンサルタント
(株)輝 workspace
日立工機(株)
日立電子サービス(株)
(株)日立東日本ソリューションズ
弘前航空電子(株)
ヒロセ電機(株)
ファーンセス化工機(株)
富士通マイクロソリューションズ(株)
富士フィルター工業(株)
扶桑建設工業(株)仙台支店
(株)復建技術コンサルタント
防災地質工業(株)
(株)北都銀行
マルヤス工業(株)岡崎工場
三井石油開発(株)
三菱マテリアル(株)
三菱マテリアルテクノ(株)
ミツミ電機(株)秋田事業所
(株)メイコー
矢橋工業(株)
(株)山武ビルシステムカンパニー東北支社
(株)ユアテック秋田支社
ユニバーサルインフォメーション・サービス(株)
横浜金属(株)
(株)ラプラス
(株)リケン
リコーソフトウェア(株)
菱栄テクノ(株)

クラス会・団体

ADK富士システム(株)北光会員有志
B-20有志
ES・MS34首都圏クラス会
OS-22期学友会
MS24クラス会有志
平成18年度電気電子工学科 卒業・修了生一同

北光会秋田支部・大学支部有志
北光会関西支部有志
北光会支部長会
北光会東北支部
北光会本荘由利地区支部
県庁北光会

千葉北光会有志
工学資源学部後援会
日本素材物性学会
平成19年度100周年記念会役員会・北光会
明德館懇話会

家志稿

浅見 秀光 男
石川 光 男

朗 好 藤 遠
孝 寺 野 小

千 葉 登
中 村 陽 生

山田 ミツエ
渡辺 友 広

旧教職員（卒業生を除く）

征雄朗ノ一男郎治彦士子次進之
絃勇金ギ俊一雄正敏卓忠寛英
兄田田村村谷田藤向木藤藤藤藤
金鎌鎌川木熊倉後小佐佐佐佐
隆大稔子雄ヶ雄二和敬浩幸弘一
和博信夕登圭正雄榮

雅春郎郎ミ悦郎工讀弘工吉子一
吉金悦フ雄悦夕 道キ光幸功
田藤原本木木藤羽橋上村山村父
澤進哲鈴鈴須千高田高田秩

弘彥邦夫雄吉隆人茂吉夫夫義昭
明正俊一廣靖久泰良恒利和利
田田田村富浦川田坂間岡川永
德永成仁乘橋長林平保本松松
谷

松谷	保	治
的場	眞	望
三三	信	一
宮武	雄	六
守山		昭
渡渡	慈	作
		侃
		秀
		功
		朗

治望一六昭作侃一秀功朗

志剛修嗣允昇志眞史由宏孝毅彦一之典洋薫一	SH6 AH13 MS51 MS55 ES39 ES42 ES49 ES49 ES60 ES63 EH2 EH3 EH10 DS54 DH1 DH1 DH6 CS47 CS51 IH7	康正	鴻正	雅智芳一	和祐洋希	陽	崎原谷谷村藤田木子木部橋野藤山村川部山 笠	高小神洪河吉佐西鈴昌佐水高今佐橫河及長景	英師匡生二夫樹夫之繼博三浩吾成夫穗美夫一 木博子 木佳	BS47 GS56 GS63 GH3 HS41 HS52 KS47 KS53 FS40 FS53 FS58 RS60 RHA	雅忠	滋誠英美芳良正	大	惠鍊節崇正幹眞	眞	村谷坂	口富上屋本元藤山谷田塚生友口井田部橋沢	中西早林堀松村守山山佐石川千二麻大田菅中長高石	準人也男厚見雄忠已幸光夫信齊殿子弓憲文志幸夫仁	眞仲拓	達忠	博芳金茂俊	力眞孝克元敏英	藤田中近木本藤藤藤藤水原馬松島橋谷石島中口本岐	齊坂坂左佐笹佐佐佐清青相泰高武田田谷玉土	二昭晃浩二三男隆直孝明郎仁子雄友肇洵重郎裕幸子	俊芳英	雄征卓規	善信泉	弘純善	勝隆一一輝	尾藤藤上水木川谷好見川沢原屋藤田上上	川村松藤	石伊伊井今澤大大大岡小小加加鎌河川菅吉木小齋
----------------------	---	----	----	------	------	---	--------------------------	----------------------	-----------------------------------	--	----	---------	---	---------	---	-----	---------------------	-------------------------	-------------------------	-----	----	-------	---------	-------------------------	----------------------	-------------------------	-----	------	-----	-----	-------	--------------------	------	------------------------

大市東高星	高川林安	友真	人威澄昇肇	BS16後 OS19 BS20 MS20 MS20	須保流夏小笠原	田坂田目原	茂高	了雄潔淳	KS22 MS22 BS23 BS23 MS23	木高伊渡宇治田	村田藤忍	芳辰良廣	博一男司耐	ES23 KS24 KS25 FS34 HS35	杉米	山田	征四郎秀勝	FS36 HS43
-------	------	----	-------	---------------------------------------	---------	-------	----	------	--------------------------------------	---------	------	------	-------	--------------------------------------	----	----	-------	--------------

[illegible]

金小藤中人藤大小門吉藏小坂佐島鈴高田水宮	澤松木村見島山笠原脇川重松田木村木野所落崎	祥文千良敬	光雄佳二亮久宏禮男市直巳一男雄平雄造男助	BS29M BS29M BS29M BS29M BS30M BS30M BS30M BS30M BS30M BS30M BS30M BS30M BS30M	秋井大金岸工齊櫻佐志杉高濱林肥村門渡荒池	山野让沢本藤藤井藤田本田野田上馬辺川崎	敏晴孝宏貞昌伊二和嘉徹了忠宏俊二	正貞廣光二仁幸夫作博郎榮夫武朗治彦芳造郎	BS31M BS31M BS31M BS31M BS31M BS31M BS31M BS31M BS31M BS31M BS31M BS32M BS32M	池石石岩岩内大大岡小小佐佐澤清鈴鈴高	田川松崎田田石敷山林木藤藤口水木木橋橋	直造幹一敏榮秀了悦真健良富純信	道次剛賀郎夫潔夫幸二諄夫混澄治二穆男三英	BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M BS32M	中長沼間山吉上加菊車駒佐清谷戸中名武渡	川田田山岸田村藤地野藤水田野村塚藤部	昌信芳弘清旭健郁正利貞敢健良信	利夫明昭登通尚学孝二輔彦一郎司一春実雄	BS32M BS32M BS32M BS32M BS33M BS33M BS33M BS33M BS33M BS33M BS33M BS33M BS33M BS33M
----------------------	-----------------------	-------	----------------------	---	----------------------	---------------------	------------------	----------------------	---	--------------------	---------------------	-----------------	----------------------	---	---------------------	--------------------	-----------------	---------------------	--

探 鉱 科

青荒柿千增山	木川屋葉田崎	和隆胤孝省	生昇政彦郎吾	TS22 TS22 TS22 TS22 TS22	伊柿鶴新小今	藤崎田井松井	日出男勇匡衛助清	TS23 TS23 TS23 TS24 TS24 TS25	金坂田松加賀外	子本中本谷崎	恒陸典	夫泰收之均厚	TS25 TS25 TS25 TS25 TS26 TS26	梁吉吉	田田見	勝裕雅	郎人之	TS26 TS26 TS26
--------	--------	-------	--------	--------------------------------------	--------	--------	----------	--	---------	--------	-----	--------	--	-----	-----	-----	-----	----------------------

鉱山学科(鉱山地質学課程)・鉱山地質学科

菊高千長藤本真吉菊工京千石櫻桑佐皆加小佐鈴高馬三宮湯赤川小	地橋田川島田崎井地藤藤葉川尾原藤原藤林藤木橋場橋腰上木村松	芳幸宜泰茂恒駿敏武洋重武由秀静諄昭運義英知泰秀	朗蔵稔政隆満夫亮明喜勉到平信昌允輝雄速史強也守一昭雄之資世	GS34 GS34 GS34 GS34 GS34 GS35 GS35 GS35 GS36 GS36 GS36 GS36 GS37 GS37 GS37 GS37 GS37 GS38 GS39 GS39	高辻姫金河小田阿金今佐武長町九田谷光飯伊佐内鈴竹長藤太大神	橋野澤瀬林中野藤田塚田山中村川沼藤木山木崎嶋山田平尾	萬正恒章治正容義昭博文秀孝隆光洋詔正勝良芳重	廣雄彦雄貴朗壁名義雄一司昭勝彦夫哉寛清輔雄國王齊二敦保久雄	GS39 GS39 GS40 GS40 GS40 GS41 GS41 GS41 GS41 GS41 GS42 GS42 GS43 GS43 GS44 GS44 GS44 GS44 GS45 GS45 GS45	佐伯木上笠原藤村川藤司村山山木本原島岡野藤藤井口田岡山口山	裕榮敬敏憲四郎久忠夫英信男夫隆哲三史康健郎実郎充生一一淳護明	GS45 GS45 GS45 GS46 GS46 GS47 GS47 GS48 GS48 GS49 GS49 GS49 GS49 GS50 GS50 GS50 GS51 GS51 GS52 GS53 GS53 GS54 GS54	大石森中金近藤森伊志川小田阿川原高根高西岸千島町原横打藤	坪山村沢藤川田嶺岸林上部谷津岸塚川山田田井矢本	友大範典敏真秀紀誠泰琴義英拓惠信品大貞幸	英三幸之巧光治剛健樹彦二久浩博光男也勉吾一一綾作子雄	GS55 GS56 GS57 GS58 GS59 GS59 GS59 GS60 GS61 GS61 GS62 GS63 GS63 GH1 GH1 GH2 GH3 GH3 GH4 GH4 GS45 GS45
-------------------------------	-------------------------------	-------------------------	-------------------------------	--	-------------------------------	----------------------------	------------------------	-------------------------------	--	-------------------------------	--------------------------------	--	------------------------------	-------------------------	----------------------	----------------------------	---

資源・素材工学科 (Aコース)

津西藤	田村田	和幸哲	康一哲	SH6 SH8 SH8	三山加	浦元沢	浩志	平保学	SH9 SH9 SH10	千代延木藤	俊樹忠	SH12 SH12 SH19
-----	-----	-----	-----	-------------------	-----	-----	----	-----	--------------------	-------	-----	----------------------

地球資源学科 (Aコース)

今泉拓也	WH15	藤井聖士	WH16	福地伸章	WH17
------	------	------	------	------	------

冶金学科・冶金燃料学科(冶金学課程)

高下武利	HS13 HS13 HS13 HS14	市川九二三	HS16前 HS16前 HS16後 HS16後	成田俊雄	HS16後 HS16後 HS17 HS17	大桂橋敏文	HS17 HS17 HS17 HS17
------	------------------------------	-------	----------------------------------	------	--------------------------------	-------	------------------------------

平松加佐	野橋藤木	幸	助進	HS17	枝部林	秀充	HS28	渡部	精源	悦降	HS37	勝	男彦	HS44
加佐	藤	文俊	進衛	HS17	藤	孝夫	HS28	越	源	昌昇	HS38	寿	彦	HS45
千	木	佳	雄	HS19	川	夫	HS29	根	光	昇	HS38	隆	茂	HS45
富	部	佳	雄	HS19	山	夫	HS30	藤	尚	務	HS38	一	夫	HS45
成	澤	繁	実	HS19	藤	允	HS30	池	佳	夫	HS38	武	盛	HS45
西	田	祐	三	HS19	口	夫	HS31	木	昭	祐	HS38	登	宏	HS45
増	田	祐	行	HS19	島	夫	HS31	村	健	弘	HS38	喜	男	HS46
松	本	祐	二	HS19	木	昭	HS31	島	秀	弘	HS38	幸	優	HS46
大	本	祐	直	HS20	野	界	HS31	田	男	三	HS38	信	珍	HS46
崎	本	祐	郎	HS20	谷	之	HS32	野	志	男	HS38	秀	樹	HS46
佐	本	祐	七	HS20	藤	亮	HS32	田	夫	宏	HS39	和	孝	HS46
原	本	祐	三	HS20	田	香	HS32	林	秀	男	HS39	裕	美	HS46
松	本	祐	章	HS20	谷	仁	HS32	田	男	宏	HS39	一	郎	HS47
三	本	祐	雄	HS20	野	實	HS32	主	智	男	HS39	明	誠	HS47
池	本	祐	和	HS22	山	寛	HS33	水	三	宏	HS39	希	夫	HS47
市	本	祐	四	HS22	野	造	HS33	橋	建	一	HS39	安	信	HS47
大	本	祐	夫	HS22	部	紀	HS33	中	雄	男	HS39	幸	樹	HS48
岡	本	祐	雄	HS22	木	夫	HS33	屋	一	宏	HS39	清	男	HS48
加	本	祐	了	HS22	藤	一	HS34	原	條	男	HS39	慶	真	HS48
川	本	祐	弘	HS22	所	男	HS34	山	登	宏	HS40	和	広	HS49
栗	本	祐	二	HS22	井	樹	HS34	谷	復	一	HS40	義	英	HS49
今	本	祐	一	HS22	代	夫	HS34	石	保	志	HS40	節	成	HS50
櫻	本	祐	平	HS22	藤	夫	HS34	上	正	凌	HS40	克	昭	HS50
杉	本	祐	八	HS22	池	夫	HS34	井	芳	史	HS40	弘	雄	HS51
塚	本	祐	片	HS22	尾	夫	HS35	原	直	人	HS41	幸	夫	HS52
堀	本	祐	北	HS22	多	夫	HS35	玉	秀	健	HS41	明	幸	HS53
三	本	祐	工	HS22	田	夫	HS35	林	晴	臣	HS41	真	幸	HS53
山	本	祐	小	HS22	秋	夫	HS35	沢	進	一	HS41	雄	夫	HS54
渡	本	祐	坂	HS23	柳	夫	HS35	村	武	男	HS41	和	夫	HS54
大	本	祐	袋	HS23	加	夫	HS36	畑	政	浩	HS41	満	淳	HS56
小	本	祐	谷	HS23	高	夫	HS36	内	芳	光	HS42	孝	久	HS57
西	本	祐	田	HS23	高	夫	HS36	原	千	勉	HS42	俊	典	HS58
根	本	祐	藤	HS24	高	夫	HS36	門	一	久	HS42	光	雄	HS59
布	本	祐	高	HS24	高	夫	HS36	野	健	石	HS42	芳	光	HS60
柳	本	祐	高	HS24	高	夫	HS36	木	昭	山	HS43	公	弘	HS62
吉	本	祐	高	HS24	高	夫	HS36	岡	宗	井	HS43	俊	志	HH1
伊	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37	塚	勝	田	HS43	松	一	HH3
大	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37	藤	正	根	HS43	松	保	HH4
大	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37	木	三	川	HS43	宮	昇	HH4
鎌	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37	井	純	井	HS44			
高	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37	方			HS44			
田	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37	桐			HS44			
渡	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高	HS24	高	夫	HS37				HS44			
小	本	祐	高											

金属工学科・金属材料学科

浅田	見倉	好晋	一郎	KS16	植枝	光隆	KS19	中總	島積	作孝	KS22	田照	村井	庸敏	一雄	KS24
渡井	倉上	晋	一	KS16	落栗	武二	KS19	松吉	山田	孝	KS22	龍小	井登	敏	至	KS24
大	上	喜	威	KS17	下	莊	KS19	明秋	石田	孝	KS22	金小	井登	弘	三	KS25
久	塚	越	章	KS17	高	政	KS19	而加	川	孝	KS23	佐守	野子	邦	雄	KS25
佐	野	親	郎	KS17	武	公	KS19	工	藤	孝	KS23	渡江	西藤	邦	彦	KS25
柴	保	信	志	KS17	塚	武	KS19	佐佐	藤	孝	KS23	江工	藤屋	彦	夫	KS25
武	藤	新	郎	KS17	成	卓	KS19	佐	木	孝	KS23	佐	邊	夫	雄	KS26
戸	田	時	紀	KS17	松	敬	KS20	榮	藤	孝	KS23	清	口	侃	範	KS26
古	井	俊	美	KS17	山	健	KS20	寺	田	孝	KS23	上	藤	三	平	KS26
松	田	正	職	KS17	石	安	KS20	永	田	孝	KS23	荒	木	秀	寛	KS46
松	谷	真	重	KS18	大	二	KS20	西	村	孝	KS23	荒	木	寛	道	KS46
新	田	宗	二	KS18	川	泰	KS20	村	田	孝	KS23	荒	木	寛	修	KS47
高	宮	三	義	KS18	佐	一	KS22	八	浪	孝	KS24	荒	木	寛	保	KS47
松	田	信	郎	KS18	前	庸	KS22	伊	藤	孝	KS24	荒	木	寛	健	KS47
三	屋	嘉	一	KS19	山	利	KS22	木	股	孝	KS24	荒	木	寛	郎	KS47
村	上	俊	三	KS19	磯			小	嶋	孝	KS24	荒	木	寛		
秋	元	光	明		大			柴	田	孝	KS24	荒	木	寛		
石	橋	文	男		川			榮	田	孝	KS24	荒	木	寛		

鉱山土木学科・土木工学科・土木環境工学科

蛇池加佐富鳥牧ケ三小佐々奈伊及加佐佐長望井大小今対長増村吉石伊川佐々木	川田藤藤田湯尻島本舞良藤川藤木谷月川橋野馬谷川山上田川藤村木	憲誠紀二光一行昇榮一郎三恒洋正夫文徹美誠大幾一己章雄真裕志詩秋介	悦吾革一郎	CS45 CS45 CS45 CS45 CS45 CS45 CS46 CS46 CS46 CS47 CS47 CS47 CS47 CS47 CS48 CS48 CS48 CS48 CS48 CS48 CS49 CS49 CS49 CS49	佐藤須高滝竹丹東橋藤山山伊井大加神佐橋石佐柴地鈴長濱福若和赤新井宇夫方山	藤田貝橋原内野郷本島内田藤上塚藤宮藤田渡木田主木部田田葉田石垣沼	純夫樹治修博昭生仁久一二隆雄誠博樹良之也明雄努薫市隆薫豊均勉孝範稔	CS49 CS49 CS49 CS49 CS49 CS49 CS49 CS49 CS49 CS50 CS50 CS50 CS50 CS50 CS51 CS51 CS51 CS51 CS51 CS51 CS51 CS51 CS52 CS52 CS52	野保沢関橋農田向木川谷葉樹藤塚田口中崎合本原内保川藤本部野森野岡井	宏富俊優享龍悦直長幸哲春秀美喜男郎一也憲次真彦惜悦諭聡弘勉彦智実	CS52 CS52 CS52 CS52 CS52 CS52 CS53 CS53 CS54 CS54 CS54 CS55 CS55 CS56 CS57 CS57 CS57 CS58 CS58 CS58 CS58 CS59 CS60 CS60 CS60 CS61 CS62 CS62 CS63	松田直樹	矢山江佐中古浅近須今石清中松島門黒望鈴馬大山櫛本大稲松堀篠榎	秀俊英隆速豚陽和忠智高壮章良壽真武正哲久史正	CH1 CH1 CH2 CH2 CH2 CH3 CH3 CH4 CH7 CH7 CH7 CH7 CH8 CH8 CH10 CH11 CH13 CH13 CH15 CH15 CH16 CH16 CH17 CH18 CS52 CH17 CH18
-------------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------	--	--------------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	--	-----------------------------------	----------------------------------	--	------	--------------------------------	------------------------	--

情報工学科

佐々木山居新石	有陽央雅樹	道一章樹	IH6 IH7 IH9 IH9	品柴音鈴	山田原木	美山貴想英人	IH9 IH10 IH10 IH12	淀関中富	川本野樫	東司朗也樹子	IH13 IH15 IH15 IH16	野原聡之	IH19
---------	-------	------	--------------------------	------	------	--------	-----------------------------	------	------	--------	------------------------------	------	------

博士後期課程（学部卒業・前期課程修了者を除く）

井口昌司	XCH9	丸島國義	XCH11	大林哲郎	XCH12	関陽見	XAH14
------	------	------	-------	------	-------	-----	-------

特設科（養成部・通信教育）

奈良富雄	LS14	青木守二	LS32	五十嵐俊彦	LS35	鎌田裕夫	LS42
村木悦路	LS19	石井忍	LS32	猪瀬諭正	LS43	崎恒	LH8
大山	LS31	江良三夫	LS34		LH2		

準会員（在学生）

工藤兼勝	佐藤健志
------	------

「備考」

※は他大学、又は本学他学部から前期課程に入学し、修了の会員他に、掲載を希望されない会員1名。

平成20年度秋田大学行事予定

時 期	全学・学部行事	学部入学	博士前期課程入学	博士後期課程入学
7月上旬		編入学（一般入試）(7/7～8)		
7月中旬		特別選抜 帰国生（秋期入学） 第1次選考7/17・第2次選考8/28		入学試験（英語特別コース）
7月下旬	通信教育講座学内スクーリング (7/25～27) 博物館前期企画展「秋田の化石」 (7/26～8/24)		事前審査受付（一般・社会人・ 外国人留学生）7/28～31	事前審査受付（一般・社会人・ 外国人留学生）7/28～31
8月上旬	ジュニアサイエンススクール (8/1～8/2) 夏季休業（8/2～9/30）	秋田大学工学資源学部オープン キャンパス（8/7） 昨年までの進学説明会（高校3年生対象） AO入試スクーリング受付 (8/4～8/15)	入学試験（推薦）8/4	
8月上旬		AO入試スクーリング（8/31）		
8月下旬			入学試験（一般・社会人・外国 人留学生）9/3～4	入学試験（一般・社会人・外国 人留学生）9/3～4
9月上旬		AO入試願書受付 (9/11～9/17)		
9月中旬		AO入試入学試験（9/30）		
9月下旬	前期終了（9/30）	編入学試験（2次募集）（2次募集 の必要がある場合）		
10月上旬	後期開始（10/1）			
10月中旬	通信教育講座関西スクーリング (10/18～19)			
10月中旬	秋田大学祭（10/18～19） オープンキャンパス（予定）			
11月上旬	全学駅伝大会（11/1）			
11月下旬		特別選抜（推薦入学Ⅰ）		
12月上旬			事前審査受付（2次募集（2次募 集の必要がある場合））（一般・外国 人留学生）	
12月下旬	冬季休業（12/26～1/8まで）			
1月上旬	冬季休業終了（1/8）			
1月中旬		大学入試センター試験 1/17,18		
1月中旬		特別選抜 帰国生（春期入学）	事前審査（2次募集（2次募集の必 要がある場合））（社会人） 入学試験（2次募集（2次募集の必 要がある場合））（一般・外国人留学生） 事前審査受付（再チャレンジ）	事前審査（2次募集（2次募集の必 要がある場合））（一般・社会人・ 外国人留学生）
1月下旬		特別選抜 推薦入学Ⅱ 私費外国人留学生選抜		
2月上旬				
2月中旬				
2月下旬	春季休業（2/21～4/3）	一般選抜 前期日程	入学試験（2次募集（2次募集の必 要がある場合））（社会人） 入学試験（再チャレンジ）	入学試験（2次募集（2次募集の必 要がある場合））、一般・社会人・外国 人留学生
2月下旬		編入学（社会人特別選抜）		
3月上旬			事前審査受付（2次募集（2次募集 の必要がある場合））（再チャレンジ）	
3月中旬		一般選抜 後期日程	入学試験（2次募集（2次募集の必 要がある場合））（再チャレンジ）	
3月下旬	秋田大学卒業式（3/22）			
	後期終了、学年終了（3/31）			
4月上旬	秋田大学入学式（4/7） 授業開始（4/9）		MOTコース・履修登録受付開始	MOTコース・履修登録受付開始
5月上旬	通信教育講座修了式（5月上旬）			
6月上旬	創立記念日（6/1）	編入学（推薦入試）		事前審査受付（英語特別コース）
	今日歩大会（上旬）			

出願手続き、試験日程等は募集要項作成次第にホームページに掲載しますのでご確認ください。
また、このページの内容等についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

入試(学部)：入試係 018-889-2313 入試(大学院)：大学院係 018-889-2316

行事：総務係 018-889-2305 学務：学務係 018-889-2312

通信教育：通信教育係 018-889-2315